

吉野宏志

株式会社アカリク

hiro231287@gmail.com

## 1. はじめに

東クシ諸言語（アフロアジア語族クシ語派）には *converb* と呼称または分類される動詞形（以下、*converb*）が存在するが、形態統語的に多様であり、一言語内に異なる機能を持つ複数の *converb* が併存する場合もある。系統的な繋がりが想定されている語群であることから、共通の祖語から継承した要素なのか個別に発達させたものなのかという議論は自ずと出てくるだろう。しかし東クシ諸言語の *converb* に関しては言語や研究者によって様々な名称で呼ばれており、また言語によっては近年になって記述された例もあり、東クシ諸言語の *converb* を対象とした先行研究も多くない。

本研究は東クシ諸言語の *converb* を、形態統語的な特徴から分析して言語類型論における *converb* の定義と照らし合わせることで、改めて分類する試みである。オロモ語（Oromo）とアフール語（‘Afar）・サホ語（Saho）のデータを中心とした先行研究の Banti (2010) の研究成果をもとに、シダーマ語（Sidaama）、アッレ語（‘Ale）、ツァマイ語（Ts’amakko）のデータを追加した。その結果、東クシ諸言語の *converb* は少なくとも三種類へ分類することができ、言語類型論的な定義の *converb* から外れた動詞形が多いことが明らかとなった。また先行研究では取り上げられていなかった「意味上の主語を特別な接尾辞で示す動詞形」を第三の分類として示した。

## 2. 先行研究

本研究において *converb* という用語は、Ebert (2008: 25) の類型における「最も狭義の *converb*」であるタイプ A から「機能的に *converb* 相当の表現（以降、CEQ）」のタイプ E までの全てを指す。Ebert (2008) のタイプ E は、Haspelmath (1995: 26, Fig.1) の定義では「従属節の動詞形」や「medial verb」と分類される表現も含む。対象言語や研究者により名称が異なるため、便宜上、本稿ではこれらの語形または表現を一律に *converb* と呼称する。

東クシ諸言語の *converb* 類型論を調査した Banti (2010: 67) は、オロモ語とアフール語・サホ語のデータの分析から、原型的な *converb* のタイプ A/A' と、定動詞に接続詞を付加したタイプ E が、東クシ語群において一般的であると結論づけている。しかし同時に、*converb* を持たない言語として認識されているソマリ語にも、オロモ語やサホ・アフール語とは統語構造が異なるが、定動詞に接続詞を付加した表現があることから、CEQ を持っていることと捉えることが出来ると述べている (Banti 2010: 67–69)。また、アッレ語（ガウワダ方言とゴランゴ方言）とツァマイ語が、ソマリ語と似た構造の表現を持っていることに言及している (Banti 2010: 69–71)。

アッレ語における重文や複文の表現に関する研究である Yoshino (2016) は、Banti (2010) が指摘した CEQ 的な表現（以下、連続形構文）について詳細に調査分析している。アッレ語において連続形構文を用いる表現をシダーマ語で表す際は *converb* 構文を使うことから、両者は用法的・意味的に類似しており、連続形構文は *converb* に相当すると考えられる。またアッレ語の具格動名詞を用いた *converb* は、シダーマ語の具格不定詞による表現と対応している。

アッレ語と同じ言語グループに属するツァマイ語も、連続形構文の構造はいくつかバリエーションがあるものの、生産的な連続形の動詞活用を持っている (Savà 2005: 172; 190)。しかし、アッレ語の具格動名詞（あるいはシダーマ語の具格不定詞）に相当する表現は記述されていない。

## 3. 言語資料と分析

本稿では対象言語の *converb* について、(1)意味上の主語の標示有無、(2)語基の種別（動名詞、定動詞など）、(3)主動詞（主節）との統語的關係の三項目を記述し分類する。また *converb* の形態的に特徴のある形式（接辞、構文など）と機能（主節に対して、先行する事象、同時の事象、連続する事象など）についても記述を行う。

\*本研究は、科研費特別研究員奨励費（研究課題番号：13J00743）、科研費基盤研究(B)（研究課題番号：25300029）、科研費基盤研究(B)（研究課題番号：26300022）の助成を受けたものである。

本文中の略号は次の通りである。1:一人称、2:二人称、3:三人称、ACC:対格、ALL:向格、ANT:先行性、CAU:使役語幹、CNS:連続形、CONJ:接続詞、CVB:*converb*、DAT:与格、DEM:指示詞、EP:音挿入、F:女性、FOC:フォーカス、FUT:未来時制、GEN:属格、GER:動名詞、IDEOPH:イデオフォン、IMPF:未完了相、IMV:命令形、INS:具格、IPFV:非完結相、M:男性、MID:中動態、NF:非最終節、NMLZ:名詞化標識、NOM:主格、PAS:受動態、PERF:完了相、PF2:第二完了形、PFV:完結相、PL:複数、PROX:近接、PRS:現在時制、PST:過去時制、SBJV:仮定法、SEQ:続発性、SG:単数、SIM:同時性。

本章の§3.1 から§3.6 は各言語の **converb** の説明、一覧表、例文で構成されている。§3.7 では、これらの言語資料を基に東クシ諸言語における **converb** について分析した上で分類を試みる。なお、例文は音韻表記やグロス等を本稿の形式に合わせて適宜修正している。

### 3.1. オロモ語

- 完結相従属形 (Owens 1985: 151) ……動詞語幹に接尾辞(-n)-**áan** を付加した語形で、主動詞に先行して現れる。意味上の主語は語形そのものに標示されないで、主節の適切な項が意味上の主語と解釈される。ただし従属形の主語が明示される場合、従属形と主動詞の前にそれぞれの主語が明示される。主節に先行する事象を表す。
- 分詞形 (Owens 1985: 151) ……動詞語幹に接尾辞-**áa** を付加した語形で、主動詞に先行して現れる。意味上の主語は主節の主語と一致する。主節と同時に起こる事象を表す。
- 重文構文 (Owens 1985: 214–215) ……定動詞の過去形と命令形の語末母音に[+high tone]を付加した語形で、主動詞に先行して現れ、同じ語形が複数連続することもある。参照文献では重文と分類しているが、常に動作の連続を表す構文で、等位接続の構文が別にある (Owen 1985: 219–220) ことから、本稿では広義の **converb** としている。

	形式	意味上の主語	語基の種別	統語的關係	機能	例文
完結相従属形	(-n)- <b>áan</b>	無標	動詞語幹	従位接続	ANT	(1)
分詞形	- <b>áa</b>	無標	動詞語幹	従位接続	SIM	(2)
重文構文	-’V(V)	有標	過去形	連位接続	SEQ	(3)
		有標	命令形	連位接続	SEQ	(4)

- オロモ語 (Owens 1985: 151, (69))  
*duresá taa-náan k’ork’ód-áa teh-e*  
rich become-CVB stingy become-PST.3SG.M  
‘Having become rich, he became stingy.’
- オロモ語 (Owens 1985: 151, (70))  
*innii utaal-áa dōw-am-e*  
he jump-CVB hit-PAS-PST.3SG.M  
‘He was hit while jumping.’
- オロモ語 (Owens 1985: 215, (19a))  
*borúu ás dūf-é taa’-a*  
tomorrow here come-CVB.PST.3SG.M stay-IMPF.3SG.M  
‘Tomorrow he will come and stay here.’
- オロモ語 (Banti 2010: 43, (11d))  
*macáafá fiu-tée dúbbis-i*  
book take-CVB.PST.2SG read-IMV.SG  
‘Take the book and read it.’

### 3.2. アファール語

- 完了相分詞形 (Bliese 1981: 71–72) ……完了語幹に接尾辞-**h** を付加し、分詞の最終母音が[+high tone]となる。意味上の主語は基本的に主節と一致するが、主節の主語が分詞の目的語となる場合は、完了形語幹に三人称複数の受動態標識が付加される。主節に先行する事象を表す。
- 未完了相 **K** 分詞形 (Bliese 1981: 72–73) ……未完了語幹に接尾辞-**uk** (稀に-**ak**) を付加した語形で、主語と主動詞の間に現れる。意味上の主語は主節と一致する。主節と同時に起こる事象を表す。
- 未完了相 **VH** 分詞形 (Bliese 1981: 74) ……未完了語幹に接尾辞-**h** を付加した語形で、意味上の主語が先行する。主節と同時に起こる事象を表すが、主語を明示する点で **K** 分詞形と異なっている。
- 先行事象 **converb** (Morin 1995: 104–105) ……動詞語幹に接尾辞-**innah**～-**innak** を付加した語形で、意味上の主語は主節と一致する。主節に先行する事象を表す。
- 第二完了形 **converb** (南部方言) (Banti 2010: 50) ……第二完了形に完了相分詞形の形態素を付加した語形で、主語は第二完了形で明示され、主節と一致する。主節に先行する事象を表すが、主節の事象へと続くことから続発性を表していると分析した。
- 否定形 **converb** (Banti 2010: 63–65) ……不定詞 (語幹+接尾辞-**é**) と形態素 **kálah** または接尾辞-**k(k)ah**～-**k(k)al** から構成され、主動詞に先行して現れる。意味上の主語は主節と一致し、否定の副詞節 (「～せずに」) を表す。

	形式	意味上の主語	語基の種別	統語的關係	機能	例文
完了相分詞形	-Vh	無標	完了語幹	従位接続	ANT	(5)
未完了相 K 分詞形	-uk, -ak	無標	未完了語幹	従位接続	SIM	(6)
未完了相 VH 分詞形	-Vh	有標	未完了語幹	従位接続	SIM	(7)
先行事象 converb	-innah ~ -innak	無標	語幹	従位接続	ANT	(8)
第二完了形 (PF2) (南部方言)	-inn-Vh	有標 (接尾辞)	語幹	連位接続	SEQ	(9)
否定形 converb	kálah	無標	不定詞	従位接続	NEG	(10)
	-k(k)ah ~ -k(k)al	無標～有標	不定詞～定動詞	従位接続	NEG	n/a

- (5) アファール語 (Bliese 1981: 72)  
*anú geq-é-h a-kmé-yyo*  
 I go-PF-CVB IMPF-eat-FUT.1SG  
 ‘Having gone, I will eat.’
- (6) アファール語 (Bliese 1981: 73)  
*óson a-nnakás-uk akát y-u-blee-ní*  
 3PL IMPF-stumble-CVB rope 3PL-PERF-see-PL  
 ‘While stumbling, they saw the rope.’
- (7) アファール語 (Bliese 1981: 74)  
*anú a-kráy-ih óson taamit-ee-ní*  
 1SG IMPF-read-CVB 3PL work-PERF-PL  
 ‘As I read, they worked.’
- (8) アファール語 (Morin 1995: 105)  
*yaab-innak tibbi ye*  
 talk-ANT.CVB shut\_up.IDEOPH say.PERF.3SG.M  
 ‘After having talked, he became silent.’ (‘Après avoir parlé, il se tut.’)
- (9) アファール語 (南部方言) (Banti 2010: 50, (21e))  
*abl-innitó-h edde yab-tá-m l-itó-h*  
 see-PF2.2SG-CVB about talk-IMPF.2SG-NMLZ have-PRS.2SG-CVB  
 ‘Since you saw it, you can talk about it.’
- (10) アファール語 (Morin 1995: 105)  
*tu qal-é kálah rab-é*  
 thing beget-INF NEG.CVB die-PERF.3SG.M  
 ‘He died without begetting any offspring.’ (‘Il mourut sans descendance.’)

### 3.3. サホ語

- 完了相分詞形、否定形 converb……アファール語と共通のため、アファール語 (§3.2 節) を参照。
- 不変形 converb (北部方言) (Banti 2010: 54–55) ……動詞語幹の最終母音に[+high tone]と接尾辞-ii ~ -ik を付加した語形で、主節に先行して現れる。意味上の主語を取る場合もあるが、明示されない場合は主節の主語と一致する。主節と同時に起こる事象を表す。
- 主語一致 converb (北部方言) (Banti 2010: 56–57) ……動詞語幹に主語を明示する特別な接尾辞を付加した語形で、主節と同時に起こる事象を表す。
- 否定形 converb (北部方言) (Banti 2010: 60–63) ……動詞語幹に意味上の主語ごとに異形態を持つ接尾辞-innixi-…を付加した語形で、否定の副詞節を表す。

	形式	意味上の主語	語基の種別	統語的關係	機能	例文
完了相分詞形	-Vh	無標	完了語幹	従位接続	ANT	(11)
不変型 converb (北部方言)	-’...-ii ~ -’...-ik	無標	語幹	従位接続	SIM	(12)
主語一致 converb (北部方言)	-...k	有標 (接尾辞)	語幹	従位接続	SIM	(13)
否定形 converb	kálah	無標	不定詞	従位接続	NEG	n/a
	-k(k)ah ~ -k(k)al	無標～有標	不定詞～定動詞	従位接続	NEG	(14)
否定形 converb (北部方言)	-innixi-	有標 (接尾辞)	語幹	従位接続	NEG	(15)

- (11) サホ語 (北部方言) (Banti 2010: 48, (20e))  
*úsun beet-een-ih y-ocoob-iin-ih q̄in-óona kin-ón*  
 3PL eat-PERF.3PL-CVB 3-drink.PERF-PL-CVB sleep-SBJV.3PL be-IMPF.3PL  
 ‘They will eat, drink and sleep.’
- (12) サホ語 (北部方言) (Banti 2010: 55, (28c))  
*cokká um-á-m áabb-ik inti mí-rhin-ta*  
 ear be\_bad-PRS.3SG.F-NMLZ hear-CVB eye NEG-sleep-IMPF.3SG.F  
 ‘When the ear hears a bad thing, the eye doesn’t sleep.’
- (13) サホ語 (北部方言) (Banti 2010: 56, (30a))  
*aktub-iyuk (káa) macalsiit-é*  
 write-CVB.1SG him watch-PERF.1SG  
 ‘While I was writing I watched him.’
- (14) サホ語 (北部方言) (Banti 2010: 63, (40))  
*beet-é-kkah as-é*  
 eat-INF-NEG.CVB spend\_daytime-PERF.1SG  
 ‘I spent the whole day without eating.’
- (15) サホ語 (北部方言) (Banti 2010: 62, (39a))  
*beet-innexiyuk as-é*  
 eat-NEG.CVB.1SG spend\_daytime-PERF.1SG  
 ‘I spent the whole day without eating.’

### 3.4. シダーマ語

- 具格不定詞 (Kawachi 2012: 177–178) ……動詞語幹に主語を明示する接尾辞、不定詞接尾辞-a、具格接尾辞-nni を付加した語形で、主動詞に先行して現れる。主節と同時に起こる事象を表す。
- converb 構文 (Kawachi 2012: 177–178) ……動詞語幹に主語を明示する接尾辞と converb 接尾辞-e を付加した語形で、主動詞に先行して現れる。主節に続けて起こる事象を表す。

	形式	意味上の主語	語基の種別	統語的關係	機能	例文
具格不定詞	…-a-nni	有標 (接尾辞)	語幹	従位接続	SIM	(16)
converb 構文	…-e	有標 (接尾辞)	語幹	連位接続	SEQ	(17)

- (16) シダーマ語 (Kawachi 2012: 178, (2b))  
*kaas-e min-i giddo-ra gongo'm-i-t-a-nni e'-'-ino*  
 ball-NOM.F house-GEN.M inside-ALL roll-EP-3SG.F-INF-INS enter-3SG.F-PERF.3  
 ‘The ball entered the house, rolling.’
- (17) シダーマ語 (Kawachi 2012: 178, (2a))  
*kaas-e min-i giddo-ra gongo'm-i-t-e e'-'-ino*  
 ball-NOM.F house-GEN.M inside-ALL roll-EP-3SG.F-CVB enter-3SG.F-PERF.3  
 ‘The ball rolled and entered the house.’

### 3.5. アッレ語

- 具格動名詞 (Yoshino 2016: 117) ……動詞語幹に不定詞接尾辞を付加したものを語基として、具格接尾辞-ttay を付加した語形で、多くの場合はフォーカス接語=kki がさらに続いて-tta=kki となる。主動詞に先行して現れ、主節と同時に起こる事象を表す。意味上の主語は主節と一致する。
- 連続形構文 (Yoshino 2016: 117–118) ……主動詞と、後続する非最終節を示す形態素 pa と連続形という活用する動詞形で構成される構文で、「pa+連続形」は連続することができる。主節の事象に続いて起こる事象を表す。

	形式	意味上の主語	語基の種別	統語的關係	機能	例文
具格動名詞	-ttay ~ -tta=kki	無標	動名詞	従位接続	SIM	(18)
連続形構文	主動詞 + pa + 連続形	有標 (活用語尾)	動詞連続形	連位接続	SEQ	(19)

- (18) アッレ語 (Yoshino 2016: 118, (2))  
*koʔas-e gangalad-e-tta=kki mann-e gala hull-i-ti*  
 ball-F roll.MID-GER-INS=FOC house-F under enter-EP-PFV.3SG.F  
 ‘A ball entered a house by rolling.’

(19) アッレ語 (Yoshino 2016: 118, (1))

*koʔas-e gangalat-ti pa mann-e gala hull-i*  
 ball-F roll.MID-PFV.3SG.F NF house-F under enter-CNS.3SG.F  
 ‘A ball rolled and entered a house.’

### 3.6. ツァマイ語

- 連続形構文 (Savà 2005: 190) ……基本的にはアッレ語の連続形構文と同じだが、非最終節の形態素が *ba* であること、形態素 *ba* が省略される場合があること、連続形が主動詞に先行して現れる場合があるという点で異なる。

	形式	意味上の主語	語基の種別	統語的關係	機能	例文
連続形構文	主動詞 + <i>ba</i> + 連続形	有標 (活用語尾)	動詞連続形	連位接続	SEQ	(20)
	主動詞 + 連続形	有標 (活用語尾)	動詞連続形	連位接続	SEQ	(21)
	連続形 + 主動詞	有標 (活用語尾)	動詞連続形	連位接続	SEQ	(22)

(20) ツァマイ語 (Savà 2005: 232)

*gelzakk-o ʔingiy-e t-uusu ka ʃagalt-e=ma ʃadd-i ba sukk-as-o*  
 baboon-M mother-F F-3SG.M.GEN FOC sac-F=in put\_in-PFV.3SG.M NF roll\_down-CAU-CNS.3SG.M  
 ‘The baboon put his mother in a leather sac and let her roll down.’

(21) ツァマイ語 (Savà 2005: 105)

*ʔufunde lákki kol-e ʔelle ʔorham-inki*  
 3PL two return-PFV.3PL each\_other fight-CNS.3PL  
 ‘The two of them returned and fought each other.’

(22) ツァマイ語 (Savà 2005: 190)

... *kaʔʔ-u pacc-e=ma zow-u ... ba raaw-i*  
 ... get\_up-CNS.3SG.M field-PL=in go-CNS.3SG.M ... NF finish-PFV.3SG.M  
 ‘... he left, he went to the fields (and on the road while he was going to sow, he ate grains) and he finished them.’

### 3.7. 分析結果

各言語における *converb* の特徴をまとめると、[A]「類型論的に原型的な *converb*」、[B]「定動詞に従属節化要素を付加した CEQ」、[C]「意味上の主語を特別な接尾辞で示す動詞形」の三分類に大別できる。本稿で同定した 24 の *converb* は、下表の通り、A が 9 つ、B が 6 つ、C が 9 つという内訳となった。

分類	言語	<i>converb</i>	分類	言語	<i>converb</i>
A	オロモ語	完結相従属形	B	オロモ語	重文構文 (完了形)
A	オロモ語	分詞形	B	オロモ語	重文構文 (命令形)
A	アフアール語	完了相分詞形	B	アフアール語	否定形 <i>converb</i> (定動詞)
A	アフアール語	未完了相 K 分詞形	B	サホ語	否定形 <i>converb</i> (接尾辞)
A	アフアール語	未完了相 VH 分詞形	C	アフアール語	第二完了形 (南部)
A	アフアール語	先行事象 <i>converb</i>	C	サホ語	主語一致 <i>converb</i> (北部)
A	アフアール語	否定形 <i>converb</i> (不定詞)	C	サホ語	否定形 <i>converb</i> (北部)
A	サホ語	完了相分詞形	C	シダーマ語	具格不定詞
A	サホ語	不変型 <i>converb</i> (北部)	C	シダーマ語	<i>converb</i> 構文
A	サホ語	否定形 <i>converb</i> (不定詞)	C	アッレ語	連続形構文
A	アッレ語	具格動名詞	C	ツァマイ語	連続形構文 (主動詞+ <i>ba</i> +連続形)
			C	ツァマイ語	連続形構文 (主動詞+連続形)
			C	ツァマイ語	連続形構文 (連続形+主動詞)

分類 A および B は先行研究 (Banti 2010) で確認されたものとほぼ一致している。分類 A は、類型論的に原型的な *converb* に該当する。意味上の主語を標示せず、語基が語幹または不定詞や動名詞で、主動詞 (主節) に対して副詞相当または従属節の関係にある。アフアール語の未完了相 VH 分詞形については、主格主語を伴うため有標となるものの、語形そのものは主語を明示していないためこの分類に含めた。

分類 B は、定動詞に従属節化接尾辞を付加した表現であるという特徴を共有する CEQ で、意味上の主語を明示する定動詞を語基とする、従属節の表現であるが、主動詞 (主節) の事象に続いて起こる事象を表すことから統語的には連位接続 (*cosubordination*) である。これはアジアの言語に確認されている E 型 *converb* (Ebert 2008: 25) との類似が認められる。

分類 C は、先行研究では確認されなかった分類で、定動詞の活用語尾とは異なる主語標示接尾辞を用いるという特徴を持っている。意味上の主語は標示されるが、動詞語幹に付加される特別な主語標示接尾辞を用いているため分類 B とは異なっている。

#### 4. 考察

言語類型論的に原型的な *converb* である分類 A は両定義における狭義の *converb* 要件を満たしうるものである。それに対して、分類 B は形態的には Haspelmath の定義する「subordinate moods」と Ebert のタイプ E に該当するものの、統語的には連位接続であると考えられる例もあることから、分類 B の一部 *converb* は分類 C との類似が認められる。分類 C は Haspelmath の定義では *converb* ではなく、また Ebert の定義とはうまく対応しないが、形態的特徴のみを考慮すると主語に応じて活用することからタイプ A'、あるいは人称・数を明示することからタイプ B が最も近い。これらの三分類を Haspelmath (1995) と Ebert (2008) の定義に当てはめると、下表のような対応関係にあることが分かる。また Banti (2010: 67) が言及しているソマリ語の CEQ (23) は分類 C に加えることができるだろう。

(23) ソマリ語 (Banti 2010: 68, (46c))

w=áy      daal-een                      oo      seex-deen  
FOC=3PL grow\_tired-PF.3PL      CONJ sleep-PF.3PL  
'They became tired and lied down to sleep.'

	Haspelmath (1995)	Ebert (2008)	統語関係
分類 A	converbs	タイプ A / A'	従位接続
分類 B	subordinate moods (～ medial verbs)	タイプ E	従位接続 ～ 連位接続
分類 C	medial verbs	(タイプ A' / B に該当?)	連位接続

分類 C は Haspelmath (1995) の言うところの「medial verbs」の一種と考えられるが、これに属する表現に動詞連続構文 (serial verb construction、以降 SVC) があるが、SVC を「接続要素なしで複数の独立動詞から構成される主従関係のない構文」(Haspelmath 2016: 292) と定義すると、分類 C の *converb* は独立動詞ではないことと、アッレ語とツァマイ語 (及びソマリ語) では接続要素が存在することから、SVC に該当しないと考えられる。これらの三分類にはさらなる下位分類を想定することがおそらく可能だが、詳細な用法やニュアンスによる分類となると考えられる。これは、アフアール語とサホ語あるいはアッレ語とツァマイ語のように方言連続体のような場合を除き、個別言語的な特徴になると考えられる。

#### 5. おわりに

本研究は、先行研究 (Banti 2010) の結論を裏付けるとともに、「意味上の主語を特別な接尾辞で示す動詞形」という第三の類型の存在を明らかにした。東クシ語群の諸言語には様々な *converb* が存在しているが、それらは形態統語的に「類型論的に原型的な *converb*」、「定動詞に従属節化要素を付加した CEQ」、「意味上の主語を特別な接尾辞で示す動詞形」の三種に大別されると考えられる。さらに対象言語を拡大して東クシ諸言語の「*converb*」を調査することが望まれる。

#### 参考文献

- Banti, G. (2010) 'Remarks on the Typology of Converbs and Their Functional Equivalents in East Cushitic.' In: S. Völlmin, Azeb Amha, Ch. Rapold and S. Zaugg-Coretti (eds.) *Converbs, Medial Verbs, Clause Chaining and Related Issues*. Köln: Rüdiger Köppe. 31–80.
- Bliese, L.F. (1981) *A Generative Grammar of Afar*. Dallas, TX: Summer Institute of Linguistics.
- Ebert, K. H. (2008) "Forms and Functions of Converbs." In: K. H. Ebert, J. Mattissen and R. Suter (eds.) *From Siberia to Ethiopia*. Zürich: Seminars für Allgemeine Sprachwissenschaft, Universität Zürich. 7–33.
- Haspelmath, M. (1995) 'The Converb as A Cross-Linguistically Valid Category.' In: M. Haspelmath and E. König (eds.) *Converbs in Cross-Linguistic Perspective*. Berlin and New York: Mouton de Gruyter. 1–55.
- Haspelmath, M. (2016) 'The Serial Verb Construction: Comparative Concept and Cross-linguistic Generalizations.' *Language and Linguistics* 17(3). 291–319.
- Kawachi, K. (2012) 'Event Integration Patterns in Sidaama (Sidamo).' *Proceedings of the Thirty-Fourth Annual Meeting of Berkeley Linguistic Society: General Session*. 175–186.
- Morin, D. (1995) *Des paroles douces comme la soie: Introduction aux dans l'aire couchitique (bedja, afar, saho, somali)*. Paris: Peeters.
- Owens, J. (1985) *A Grammar of Harar Oromo (Northeast Ethiopia)*. Hamburg: Helmut Buske Verlag.
- Savà, G. (2005) *A Grammar of Ts'amakko*. Köln: Rüdiger Köppe.
- Yoshino, H. (2016) 'Event integration and the consecutive construction in 'Ale.' *Asian and African Languages and Linguistics* 10. Tokyo: Tokyo University of Foreign Languages. 113–137.